



おぎの

あらためて「学校」について

校長 倉持 伸雄

今から5年前、日本中の学校が数か月間一斉休校となりました。学校再開後もしばらくは、行事はなくなり、給食は黙って食し、マスクを着け、人との会話や交流は極力制限した中で静かに過ごす日々が続きました。

そこで確認されたのが、次のような「子どもにとって学校の持つ意義」でした。

- ・基本的な生活リズム(睡眠、食事、運動)を保障することによる健やかな成長の基盤としての場
- ・家族以外の人との集団生活を通して社会性や人間関係を学ぶ(育む)場
- ・授業で学ぶ知識だけでなく、学び方そのものを学び、やる気や根気などを育む場
- ・家庭の教育力や経済的な状況に関わらず全ての子どもに公平な学習機会を提供する場
- ・行事などの体験的な活動を通して、生きる上での知恵の獲得や心の成長を促す場

本校では、「荻野小」という場が、それらを保障する場となれているかを振り返り、次年度に向けた準備をしているところですが、その中で改めて私を感じたことは、子どもたちが学校にいるということへの感謝でした。コロナは、それが当たり前ではないことに気づかせてくれました。子どもたちがいるから、学校は学校でいられます。子どもたちには、疲れて休みたい日や、友達ともめて学校に行きたくない気分の日もあるものですが、それでも、子どもたちは学校に来てくれています。また、その陰にある、背中を押して送り出してくれる保護者様のお力についても、当たり前のことではないと、感謝の気持ちで一杯です。

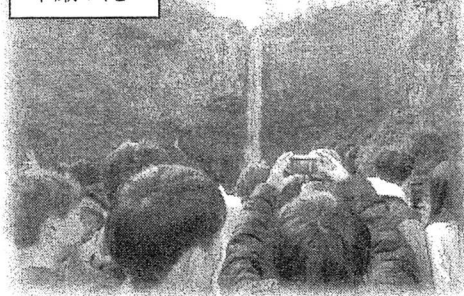
保護者の皆様、今後も引き続き、「学校」に子どもたちを送り出してください。学校は、その思いを受けながら、子どもたちの自立・成長にむけて全力で支援していきます。不安や心配があれば、ぜひ、教えてください。一緒に考えましょう。2学期のご協力、ありがとうございました。新年も引き続き、よろしくお願いいたします。

6年修学旅行

日光東照宮



華厳の滝



湯滝



日光江戸村

